



粗砕カキ殻施用草地における土壌改良効果の持続性

【 1 成果の概要】

- (1) 草地造成時に、粗砕カキ殻を石灰で炭カルとの 2 倍量以上土壌混和することにより、利用 5 年目においても炭カルと同程度以上の土壌 pH、土壌中交換性石灰が期待できます (図 1・図 2)。
- (2) 年間牧草収量は、利用 2 年目以降、カキ殻を 2 倍量以上施用することにより、炭カルと同等以上収量が得られます (表)。

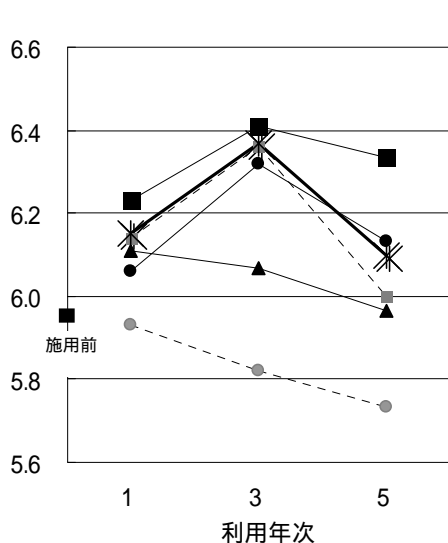


図 1 土壌 pH の推移

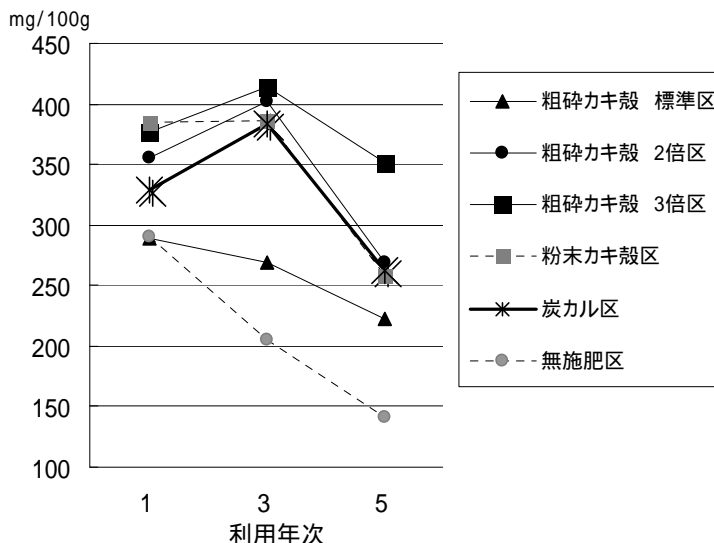


図 2 土壌中交換性石灰の推移

表 牧草年間乾物収量

牧草収量	1年目	2年目	3年目	4年目	平均
粗砕カキ標準区	721	916	1,070	1,146	895
同2倍区	704	945	1,249	980	903
同3倍区	757	1,012	1,268	1,077	953
粉末区	778	1,003	1,204	1,014	926
炭カル区	708	925	1,182	958	880
無施肥区	665	846	971	853	772

【 2 留意事項】

- (1) 粗砕カキ殻標準区及び粉末カキ殻区の施用量は、炭カルの石灰と同量を含む量を施用し、2 倍区、3 倍区はその 2 倍量、3 倍量となるように土壌混和します。
- (2) 粗砕カキ殻は、最大 5cm 程度で、1cm ~ 5cm の粒度のものが 8 割を占めます。粉末カキ殻は 100% が 2mm 未満のものです。
- (3) チモシー草地の成績です。

【 3 適応対象】

- (1) 適用地帯
県内飼料畑
- (2) 期待する活用効果
県内未利用カルシウム資材の有効活用
県内飼料畑における土壌改良

担当研究室 畜産研究所外山畜産研究室

〒028-2711 岩手県盛岡市玉山区藪川大の平 40 TEL. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012